



昔、あるところに貧しい家族が暮らしていました。娘が3人いましたが、結婚させるお金がありません。それを聞いた聖職者が、家族を助けるためにお金を用意し、こっそりと窓から金貨を投げ入れました。金貨は暖炉のそばに干していた靴下にすっぽり。そのお金で3人の娘は幸せに結婚することができました。

この聖職者の名は聖ニコラウス。サンタクロースのモデルとされる人です。クリスマスにサンタクロースがこっそりとプレゼントを靴下に入れるという話は、この言い伝えから生まれたそうです。みなさん、靴下は用意しましたか。えっ、今年は新型コロナで、サンタはプレゼントを届けられないんじゃないかって？ 確かに、サンタが感染したら困るし、外国に行くのも難しいけれど、心配はありません。米国立アレルギー感染症研究所の所長が、「わたしが行って、サンタにワクチンを打ってきました」と話していました。サンタには特別な許可もあって、どの国にも自由に行けるのです。

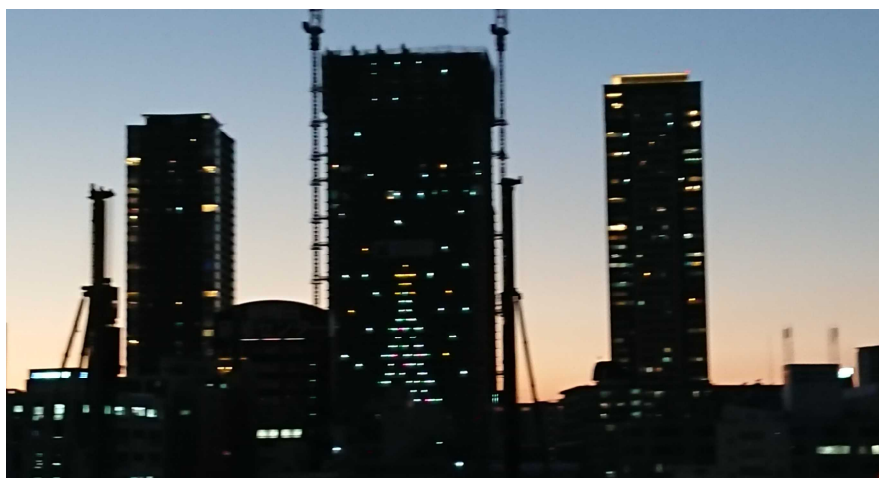
いろんな事情でサンタが来ない家もあるでしょう。でも、いい子にしていたら、サンタはいつか「幸運」をプレゼントしてくれるはずです。そして、実は大人も心の中に靴下を用意しているのです。コロナに効く安全なワクチンを届けてくれないかなあ、と願って。



白いひげの男は毎年この日の夜、決まってこの店にやってきます。ただし、今年はえらく早い。いつもの年なら明け方近いのに、まだ10時です。「仕事はもう終わったのかい」「ああ、今年はちょっと事情があるんじゃない」

この男の仕事は、この日の夜でなければ意味がないはず。そして、この男の仕事を待っている人もたくさんいます。「仕事なら、ちゃんと済ませているさ」・・・

ひげの男は席を立てて店を出る時、こう言って笑いました。「来年はきっと、いつも通りの時間に来られるはずだ。」



大きな建物の工事現場。西の空があかね色に染まり、夕闇がせまってきたころ、無機質な建物の壁面にクリスマスツリーが浮かび上がってきました。工事現場で働く人たちのアイデアなのでしょうか、クリスマスプレゼントをもらったような、あたたかい気持ちになりました。